

環境問題

[戻る](#)

科目名	環境問題				コード	B110100		
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期				
講義	選択	2	1～4年	前期				
担当者名	安溪 遊地, 他5名							
授業概要 「環境問題は専門家にまかせておかない地球レベルの問題だ」という”常識”を根本から問い直し、身近な環境問題を足元から解決するための知恵と経験にまなぶ。身の回りで何か問題が起こったら、と想像できる感性を育て、みずからの暮らしを守るために行動に移す勇気を培う。衣食住のうちで、とくに今問題となっている「住生活と環境」をひとつの柱に、現場の声に耳を傾けさせる。マスコミには載らない情報に触れることで、さまざまなマインドコントロールを越えて、自分の生活そのものを再点検しながら深く考え、足下から暮らしと環境を変えていききっかけをつかむ生活者を育てる。								
到達目標 1)環境問題をめぐってなぜメディアが真実を語れないのかその背景を理解する。2)最高の学習の場が地域の暮らしの現場であることを実感する。3)問題が根本的に解決するまでの自らの暮らしを守る方法を実践例によって学ぶ。				成績評価の方法と基準 出席と授業中の発言による「参加点」。自由なテーマの小レポート1回以上と期末大レポート1回。大レポートのタイトルは授業中に指示する。				
学習目標			評価項目と割合					
具体的学習目標	配点比率	出席及び 授業態度	小テスト	自主学習 態度	レポート	プレゼン テーション	学期末 試験	その他
(1) なぜメディアが真実を語れないのかを理解する	20	10	0	10	0	0	0	0
(2) 最高の学習の場は「地域の現場」だと実感する	50	10	0	10	5	0	25	0
(3) 自らの暮らしを変える実践にチャレンジする	20	0	0	20	0	0	0	0
(4) 実践にもとづいて希望を語る説得力を身につける	10	0	0	0	0	5	5	0

授業の項目と内容	自主学習課題
(1) 4/15)出過ぎる杭は打たれないーこの講義の進め方	
環境問題といわれるもののほとんどは人権問題です。安心して暮らせる平和な地域を守るための身近な地球人たちの痛快なチャレンジを紹介します。	テキストの中から興味あるものをひとつ読んでみよう。地域に生きるひとりの生活者としてできるさまざまな生き方と、世界全体がどうつながっているかを感じてほしい。
(2) 4/22)マスメディアの限界を知るードキュメンタリー映画作家西山正啓さんに学ぶ	
なぜマスメディアは真実を語れないのか。長年のドキュメンタリー制作の現場から見える風景を、自作のよりすぐりの作品通して紹介していただく。	隠された真実があきらかになったとき、どのような影響があるか、最近のさまざまな偽装などの問題を材料に考えてみよう。
(3) 5/13)消えた鎮守の森で——生活者としてできることを求める福田雅美さんの声	
静かな住宅地で、鎮守の森の山をまるごと削る大規模工事。埃と振動に苦しむ年月のあと、そこに米軍の住宅がくると知った時、岩国の住民たちは動き始めた。	国レベルで必要とされることと、自分の家のすぐ前で起こってほしくないことが矛盾する具体例を考えて、そのおりあいをどうつけるアイデアをだしてみよう。
(4) 5/20)グローバルからローカルへ——半農半Xの楽しみを生きる大下充億さん	
第三世界での援助の現場で自然の循環の中でいきる人々に出会い、山口の地で自給的な暮らしをしながら、本物をお菓子や売るといいう仕事に取り組んでいる人の物語。	あらかじめテキストの大下さんの章を読んで、いろいろな質問を考えておこう。
(5) 5/27)山で暮らして海とつながる——車椅子林業家白松博之さんの活躍	
障害をもったからこそ見えてきた世界と自然の循環にそった暮らしを求める「あったか村」そこのさまざまな取り組み。	「あったか村」についてインターネットで調べてみる。 http://www.haginet.ne.jp/users/poco-a-poco/
(6) 6/3)スローなくらし・スローな食べ物・スローな観光をめざす白松さんの取り組み	
いなかには都市が忘れてしまった大切なものがある。それを見つけてきて、その知恵をみにつけよう。	http://www.haginet.ne.jp/users/kikori/ で農家民宿とは何かをみてみよう。
(7) 6/10)環境問題に取り組む人々を西山正啓監督のドキュメンタリーで学ぶ	
西山監督に環境関連のドキュメンタリーをみせていただき、ともに考える	ドキュメンタリー映画という手法について調べてみよう。
(8) 6/17)スペイン・ナバラの農家民宿と自然エネルギー	
山口県と姉妹提携しているスペインのナバラ州では、グリーン・エネルギーとグリーン・ツーリズムの取り組みが盛んで、元気がもらえる。	http://ankeijp で「自然エネルギー」などで検索してみよう。
(9) 6/24)世界の森を守る人々との交流	
どのような困難の中でも、希望を失わず自然との共存に生きる人々の生き様に学ぶ。	http://ankeijp/yuji/?n=105 を読む。
(10) 7/1)瀬戸内海がよみがえる日	
瀬戸内海最高の海と原発予定地の自然が破壊されていく現状の報告。長島の自然のこれまでの取り組みをとこれからについて。	瀬戸内海の片隅にかるうじて生き残った太古の生物のひとつの気持ちになって、人間たちの贈るメッセージを100文字でコミュニケーションボードに書いてみよう。
(11) 7/8)大規模開発につける薬はあるか——安溪遊地担当	
日本生態学会で3度「大規模開発につける薬」というシンポジウムを主催した。良薬は口に苦し。しかし、薬がなければわれわれの暮らしが減じるのである	自分が書いてみたいと思う最終レポートについて、仮の主題を考え、どのような資料が利用できそうか考えてみる。
(12) 7/15)安心安全の暮らしのために(1)——安溪遊地担当	
それはほんとうに安心して食べられるものか、例えば10週間も腐らないポテトチップス。例えば半年もかびないレモン。例えば……。食べ物から暮らしを見直すための提案。	最終レポートの「目標規定文」を100字程度で書き、文中での引用を予定している経験・本・雑誌・新聞・インターネットなどを具体的に列挙する。
(13) 7/22)安心安全の暮らしのために(2)——安溪遊地担当	

いま何が一番危機なのか。いま何をしなければならないのか。	この日までにレポートの下書きを作成して、安溪にメールで送信した受講生は、コメントを取り入れて改訂版を作成し、再提出することを認める。
(14) 7/29))いま足下からできること——小さな森に県産材で建てた価格破壊住宅で	
安溪遊地担当。県産材の産直で建てた価格破壊の自然住宅づくりと「第三種兼業農家」としての四季の暮らし。そして、そこに突然起こったごみ処分場騒動の顛末。	自分の暮らしを変えるには、よくきく鼻とほんの少しの勇気が必要なのかもしれません。きっかけはささいなことでも、やってみましょう。
(15) だまされないために——知るは難く行方は易し(孫文)	
ありもしないことを恐れたり、できもしないことを信じているから不安になるのです。いろいろな情報の海を泳ぎ切る力をつけましょう。	それには、きちんとしたものを感謝していただき、丈夫な頭と賢い体をもって、軽やかに動いていくことが大切だと思います。学生による授業評価を忘れずに！
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト。安溪遊地編、2009『出過ぎる杭はうたれない～痛快地球人録～』みずのわ出版。本当の教材は地域とそこに生きる人々であることに気づいてほしい。	地球環境問題とされるものには、マインドコントロールな要素があることに気づいていると判断されれば、「可」以上。環境問題の解決には、地域において具体的に取り組めることが多いことを理解できたら「良」以上。身近な環境問題の解決を希望をもって語る姿勢があれば、「優」以上。さらに、身近な実践を通して、地球環境問題の解決に結びつくような提案ができれば、「秀」となります。
受講生へのメッセージ	
きっとまだ間に合う。できるところから始めてみましょう。足下から実践している方々をお迎えするその現場を訪ねるチャンスがあったら、気軽に動いてみましょう。	